

『クルアーン』が描く永遠の神

アッラー、此（こ）の生ける神、永遠の神をおいて他に神はない。まどろみも睡（ねむ）りも彼（アッラー）を掴（つか）むことはなく、天にあるもの、地にあるものをことごとくあげて彼に属す。誰あって、その御許しなしに彼（アッラー）に取りなしをなしえようぞ。彼は人間の前にあることもうしろにあることもすべて知悉（ちしつ）し給う。が、人間は、（その広大な）智恵の一部を覗かせていただくのもひとえに御心次第。その玉座は蒼穹（そうきゅう）と大地を蓋（おお）ってひろがり、しかも彼はそれらを二つながらに支え持って倦（う）みつかれ給うこともない。まことに彼こそはいと高く、いと大なる神。

（井筒俊彦訳『コーラン（上）』2章 255節 岩波書店）

『クルアーン』における道徳的規範

言ってやるがよい、「さ、ここへおいで、お前たちの神様が禁止なさったことを言ってきかせから。まず（アッラー）のほかは一切神を認めないこと。次に両親にはやさしくして、いくら貧乏でも自分の子供を殺さぬこと（古代アラビアでは、食えない場合は子供——特に女の子——を殺す習慣があった）。お前たち自身も子供たちも我ら（アッラー）が養ってやる。外に現

われることでも、心の内のことでも、ともかく汚穢（おわい）には近づかぬよう。それからアッラーが禁じ給うた生命（生きた人間）は、特に許された場合（例えば戦争の時など）以外には絶対に殺害せぬこと。さ、これがお前たちにたいするアッラーの御命令。これもみなお前たちにものを分らせてやろうとしてし給（たも）うたこと。

それからまた、孤児（みなしご）の財産（の保管者になった場合）はその子が成年に達するまで決してそれに手を出してはいかん。尤（もっと）も改善してやるためならよいが。また、（取り引きの際は）枅目（ますめ）や目方（めかた）は公正にはかること。我らは誰にも無理な重荷を負わせたりはしない。それから、何か意見を吐く時には、たとえ相手が近い縁者であっても、必ず公平な態度をとるようにせよ。またアッラーとの契約は必ず果（はた）すよう。さ、これがお前たちにたいするアッラーの御命令。これもみなお前たちに反省させてやろうとしてし給うたこと。

これこそ我が道。どこまでも真すぐに続く。さ、（この道）を歩いて行け。

（井筒俊彦訳『コーラン（上）』6章 151-153節 岩波書店）

預言者ムハンマドと

天使ジブリエル（ガブリエル）の問答

アブー・フライラ（ムハンマドの言行の伝承者のひとり）によると、或（あ）る日、預言者が人々の前に現われると、一人の男が来て、信仰（イマーン）とは何か、と尋ねたので、彼は「神と天使と使徒達を信じ、最後の日と復活を信じることである」と答えた。次に、イスラームとは何かと問われたとき、彼は「神のみを崇（あが）め、神に並べて他の何物をも拝せず、礼拝を行い、定め喜捨を出し、ラマダーンの断食をすること」と答えた。次に、善行とは何か、と問われ、彼は「あたかも目の前に見るように、神を崇めることである。たとい汝（なんじ）が神を見なくても、神は必ず汝を見るであろう」と答えた。次に最後の時はいつか、と問われたので、彼は「それを問われたわたしは問うあなたより知っているわけではないが、ただそれが来るときの前兆として次のようなことがあることを伝えよう。……この最後の時は神のみが知る五つの不思議なことの一つである」と答え、「まことに、アッラーのみがかの時のことを知る」（『クルアーン』三一章三四節）と唱えた。そこで男は直ちに立ち去り、預言者は彼を連れ戻すように命じたが、もはやその姿は見当らなかった。そのとき預言者は「これは、人々に宗教を教えるために来た天使ジブリエルに違いない」と言った。